

次期学園長に住田昌治氏を選任

湘南学園理事会

住田現学園長の任期が、2024年3月末日をもって終了することから、理事会では次期学園長（2024年度から2025年度）の選任を進めてまいりました。

11月4日開催の臨時理事会において次期学園長に住田昌治氏を選任いたしましたのでご報告いたします。

選任にあたり、学園長候補者を学内教員及び学外の教育に造詣の深い方から同時に求めましたが、一名の候補者の推薦を規定数の学内教員の方からいただきました。

理事会の場では学園長候補者より今後の方針や抱負等のプレゼンテーションをいただきとともに、質疑応答により候補者の考えを理解した上で住田昌治氏の再任を決定いたしました。

2024年度から、2期目となる住田学園長体制において、湘南学園は100周年に向けて新たな一歩を踏み出します。建学の精神を培われた伝統を堅持しつつ、総合学園としての強みを活かした教育活動を推進してまいります。

皆様の一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。



学園長再任にあたって

学園長 住田 昌 治

1 ケアで育み、 学校を元気にする ESD

創立90周年を迎え、100周年に向けて、さらなる発展を目指す湘南学園の学園長として2期目を務めさせていただくことになりました。建学の根底にある「自由で独自の校風を持ったわたしたちの学校をつくる」という設立当時の方々の思いを常に意識し、これまでPとTで共同経営されてきた体制を尊重するとともに、長年に渡って培われてきた学園経営に学びながら、湘南学園のさらなる発展に寄与できるように、微力ではありますが持てる力を注ぎさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

ESDで共有したい価値

はケアです。ケアを核とした取り組みは、学園全体に染みわたari、拡がります。そして、学園全体に安心感や充実感の感じられる雰囲気がつくられます。

学校の中にはたくさんの壁があります。お互いにケアし合い、その壁を低くして橋を架けることで、つながり合うことができます。

つながり自身が自己肯定感を育み、変化をもたらします。しかし、変化が求められるからと言って、急激な変化は、反発と軋轢を生みま

せていくことが肝要です。それを私はESDの「もみじアプローチ」と名付けて取り組んできました。

子どもたちが安心して学園生活を受け入れ、仲間助けられ、「わたしたちの学園」という思いを育むためには、「ケア」し合うことが重要になります。何よりも先ず「学び」や「遊び」

「生活」の中にケアや癒やしを求められます。ケアや癒しは、ひとりでは実現できません。共感しあえる学園において、「ケアリング」を發揮しながら、ともに聴き合い・支え合おうとする

時、癒し癒される関係が成立します。一人ひとりの差異を認めるために、共感しながら友だちやまわりの環境と関わりを持つことが大切です。



また、ESDが内在化された学園には、学園に入った瞬間に感じる心地よさや明るい雰囲気があります。特に「ケア」をビジョンとしたESDの取組みは学園全体に染みわたり、さらにPTAへ、地域社会へと広がりが期待されます。ESDは面倒で時間がかかり、関わるすべての人の意識改革が求められますが、確実に持続可能な未来への変化をもたらします。学園での取組によつて、子どもが地域社会を変えていこうとする当事者となっていく姿を見ることは、持続可能な未来を描くうえでも明るい希望となることでしょう。

2 ユネスコスクールとしての湘南学園

湘南学園がESDの推進拠点として、湘南地区さらには神奈川、日本のプラットフォームフォームとして存在し続けることをビジョンとして描いています。現在、中学校

高等学校に続いて幼稚園・小学校もユネスコスクール加盟に向けて申請し、チャレンジ期間を終えて、加盟登録に向けて待機している状態です。

中学校高等学校がユネスコスクールに加盟して10年、湘南学園ESDを推進してきました。振り返ってみると、ユネスコスクールとしてESDを推進することは、環境教育や国際理解教育を推進することだと思われていた頃から、湘南学園では6年間のプログラムを作成し、「自他の理解と尊重」「身近な地域を知る」「異なった地域を知る」「日本、そして世界の主問題に目を向ける」「持続可能な社会の担い手として自分たちが望む未来」とつなぎながら総合学習を行っています。

身の回りの小さな問題から、世界人類が抱える課題へと6年間の発達段階に沿った学びが展開されていることは、ESDの本質である変容を生み出し、認知能力の

みならず、非認知能力をも高める取り組みになっています。実は、湘南学園ESDは、これからの社会づくりのポイントとして示されている「持続可能性」と「ウェルビーイング」の実現に向けた学びになっているともいえるのです。

3 学園全体の持続可能な発展をめざして

このような湘南学園ESDの学びが全学で実践されていくことを考えるとワクワク感が増してきます。

湘南学園に勤めて1年8か月。最大のメリットは、幼小中高が同じ敷地内にある総合学園であることだと感じています。これまで公立小学校に勤めていましたが、こんなに身近に幼稚園や中学校高等学校があったことはありませんし、行き来しやすい環境にあったこともありませぬ。幼稚園から高等学校までの子どもたちが学ぶ学

園、正に多様でカラフルな学園だと感じています。そして、これまで建学の精神に基づいた教育実践が為され、90年の長い歴史の中で、不易と流行に照らし合わせて学びをアップデートし、今日の学園を築かれて来たのだと思います。不易は、歴史に学び、学園に染みついていく魅力でもあります。卒業生の多くは、学園への愛着が強く、「先生たちがチャレンジを大切にしてくれ、いつも見守ってくれた」「自分たちがやりたいことをやらせてくれた」「親身になって話を聞いてくれた」とにかく、学園にいる間いい思いをした」と語ってくれました。正に、学園教育から生まれた主体性や人間力を備えた卒業生が湘南学園のブランドとなっています。その不易を守り続けるためには流行にも目を向けなければなりません。流行というのは、今の時代に合った教育のやり方であり、教員の働き方であり、

子どもや保護者・地域との連携です。これまでと同じやり方ではうまくいきませぬ。常に、アンテナを高くして社会の変化に敏感に対応し、バージョンアップをしていかなければ不易を守ることができません。

湘南学園は、全く独自の「共同体」を形成し、90年も存続し、先輩たちは様々な危機に直面しても乗り越えられてこられました。明るく活気ある学園の風土は誰もが共有できる宝であり、卓越した建学の精神と立地に恵まれた学園は、未来への独自の希望を実現できると信じています。90周年記念事業を終えた今、これまで以上に学園関係者との連携を強化して学園経営に取り組んでまいる所存です。どうかご理解とご協力をお願い申し上げます。

から、情報を早めに共有し、湘南学園ならではの強みを生かしながら務めていきたいと思います。

湘南学園は、全く独自の「共同体」を形成し、90年も存続し、先輩たちは様々な危機に直面しても乗り越えられてこられました。明るく活気ある学園の風土は誰もが共有できる宝であり、卓越した建学の精神と立地に恵まれた学園は、未来への独自の希望を実現できると信じています。90周年記念事業を終えた今、これまで以上に学園関係者との連携を強化して学園経営に取り組んでまいる所存です。どうかご理解とご協力をお願い申し上げます。

